

## 平成 26 年度 学内教育 G P プログラム 事業経費計画書 (萌芽型)

学 長 殿

申請者 (プログラム代表者名)

氏 名 小玉 亮子

(部局長等の承認)

私は下記の申請について了承します

職名 教育機構長

氏名 耳塚 寛明

職名 大学院人間文化創成科学研究科長

氏名 石口 彰

事業名称	グローバル女性リーダー育成 高度リベラルアーツプログラム
取組代表者名 担当者名	小玉亮子 小谷眞男、最上善広、加藤美砂子、森義仁、長谷川直子、北林春美、 マルセロ デ アウカンタラ、申 琪榮
事業内容	<p>本事業は、文部科学省平成 26 年度概算要求主要事項高等教育関連政策のうち、スーパーグローバル大学事業 (新規) への応募を目指すもので、大学教育の国際標準化、研究職向上に繋がる教育力の最大化を図るために、現行制度の枠にとらわれないグローバルリーダー育成を目的としている。加えて、既に本学で進められているグローバル人材育成推進事業や博士課程リーディングプログラムと連携しつつ、海外インターンシップ開発ならびにカリキュラム開発を行うものである。具体的な事業内容としては、グローバルリーダーの育成のために、昨年より試行している以下の二つの事業を引き続き実施する。</p> <p>1、海外実践的活動支援 本事業では、グローバルリーダーに不可欠な資質を育成するために、企業や NPO 等各種団体におけるインターンシップ活動への参加を対象としてきたが、これに加えて、今年度は、研究力向上に繋がる活動への参加にも支援を行う。</p> <p>2、トランス・サイエンス グローバルに活躍するリーダーに必要な、専門分野に閉ざされない理系文系という垣根をこえる広い視野を育成するために、リベラルアーツの高度化の試みとして、平成 25 年度に新設した大学院共通科目のトランス・サイエンス論を引き続き開講し、シンポジウム等で広く学内に成果を反映させる。</p> <p>国境を超え、個別専門領域を超える、境界線を自由に超える力をもつグローバルリーダーの育成のために、本事業では、上記二つの事業を試行的に進める。</p>
積算内訳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AA @1,200 円×4h (1 週間)×4 回 (1 ヶ月)×12 ヶ月=230,400 円</li> <li style="padding-left: 2em;">交通費 1 ヶ月 1,000 円×12 月=12,000 円</li> <li>・ 講師謝礼 @20000×2 人=40000 円</li> <li>・ 海外実践的活動支援 海外派遣 @160,000 (上限)×4 名=640,000 円</li> <li>・ 謝金 @1,000 円×35h=35,000 円</li> <li>・ 物品費 42,600 円</li> </ul>

平成25年度 学内教育GPプログラム事業（萌芽型）  
現在の進捗状況と今後の事業計画書

取組代表者 小玉 亮子

事業名称	グローバル女性リーダー育成 高度リベラルアーツプログラム
現在の進捗状況	<p>平成25年度は、本事業において、リベラルアーツの高度化の観点から、大学院生を対象として、以下の2点の事業を実施した。</p> <p>1、海外実践的活動支援 海外におけるインターンシップ等の活動への参加を希望する院生に対する渡航補助をめざして、前期と後期でそれぞれ二回希望者を募集した。計10名の応募があり、そのうち4名を採択した。採択者のうち一名は12月に連絡があり、一身上の都合で辞退したため実際の派遣は、当初の計画どおり3名となった。すでに一名ルワンダに行き、このあと2月にフランスとインドにそれぞれ派遣する予定である。</p> <p>2、トランス・サイエンス論 リベラルアーツの高度化として、平成25年度に大学院に新設の大学院共通科目トランス・サイエンス論を設置した。理学専攻と人間発達科学専攻の院生が参加し、小谷准教授によるゼミで活発な討論をおこなった。また、受講生のみならず学内に広く公開した、映画上映、特別講義、シンポジウムを開催した。長谷川准教授を中心に、トランス・サイエンス論の題材として映画「モンサントの不自然な食べ物」の上映会を行い、加藤教授による遺伝子組み替え作物に関する特別講義を開催した。海外の地震学者を招待して特別講義「イタリアの震災リスク裁判と科学者の社会的責任」を、最上教授を中心にシンポジウム「宇宙のトランス・サイエンス」を開催した。</p> <p>なお、詳細については、添付のチラシ及び報告書(案)を参照のこと。</p>
今後の事業計画	<p>1、海外実践的活動支援 平成26年度も引き続き、大学院生を対象とした海外派遣をおこなう。25年度は新しい試みであったことから、応募者に説明の機会を設けたものの、実際の応募者の中には、見学に終始するといった活動含まれないものなどがあり、まだ周知が十分でないところがあった。従って、妥当な応募が増加するようにより詳しい説明を行いながら募集を行うことを考えている。加えて、研究力の向上に資する海外での活動にも支援を拡大することを計画している。</p> <p>2、トランス・サイエンス論 平成26年度は、引き続き大学院の共通科目としてトランス・サイエンス論を開講し、また、公開シンポジウムを開催する。</p> <p>これに加えて、学部で全学を対象としたLA科目の一つとして、トランス・サイエンス入門の講義を小谷・長谷川・森の各教員によって新規に開講する。この二つの科目によって、学部と大学院で連動させる予定である。</p>

※ この様式は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください